

## アマダイ通信NO. 78b

(Tile fish network letter)

2010年 若葉の季節に

### 知人・友人各位

鳩山民主党政権への支持が低迷する一方、自民党への支持は更に低迷、その隙を衝いて新党も乱立、今夏の参議院選で読者の皆さんはどのような選択をされるのでしょうか？自民党が14年もかかって解決できなかった普天間の問題を半年で解決するというのは難題だし、半世紀間、政権と行政情報を独占して来た自民党から政権を奪っても、日本唯一のシンクタンクとしての官僚から政権党の一割も情報を提供されることになかった野党が、整合性ある政策を実現するのも、中々難しい。昨夏に続き、国民は如何なる審判を下すのでしょうか？政治は国民レベルの反映でもあります。

### ◎大腸がん7周年記念？検査・・・施術台の上の同窓会

殆ど治癒する見込みなし(岩波新書「胃がんと大腸がん」というステージⅢbの大腸がん、ブッシュのイラク破壊を横目に手術を受けて7年、大腸と胃の内視鏡検査、腹部と胸部のCT撮影を御茶ノ水駅前の三楽病院です。大腸の内視鏡検査前日は朝から検査食。朝昼は大塚のボンカレーならぬ白粥と麩入りの味噌汁。朝は粉沫梅干、昼はフリカケ付きで意外と美味しい。夕方はコーンポタージュスープと無果汁ジュース。中々出来ないダイエットと休肝の一石三鳥と、空腹をやせ我慢する。ボンカレーの技術を医療食に転用、二度美味しい大塚さん。当日の朝は腸内を綺麗にするため、下剤2リットルを2時間で飲む苦業。飲んでトイレを繰り返す。段々少なくなる固形物が黄金の輝きを増し、オシッコ？とガスだけを噴射するようになるとフィニッシュ。肛門から内視鏡が入るのは二時だ、終わったら何食べようなどと、食欲旺盛は元気な証し？

お尻に穴の開いた紙製の検査衣を着る。芭蕉も着たと奥の細道にある紙衣(かみこ)もこんなものだったのか？と考えている内に、お尻にゼリーが塗られ、ぬるっと内視鏡が体内に滑り込む。腸内は我ながら惚れ惚れするくらいに綺麗だ。驚いたことにお尻に指を突っ込み、ゼリーを塗ったのは昭和56年入寮の三鷹寮の後輩の和田君。三鷹寮の先輩の河野さんが院長だったので三楽に入院することになったんです、などと話しながらモニターテレビの画面を一緒に見ている内に、和田先生が私も三鷹寮です！と、施術台の上でしっかり同窓会、楽しく内視鏡。以前も、学生時代に学内団体の東大学力増進会(学増)と一緒にアルバイトした大島君が、警察病院から出向いて内視鏡してくれて、干場さんじゃない？と声を掛けられ驚いた。その時は小さなポリープがあって採ってもらったが、今回は何もなし。ポリープもないと何故か寂しい感じもするが、ポリープが癌にまで成長するには大分時間がかかる、一安心。

飯田橋から中野に新築、移転した警察病院のコンクリート製の外壁、カーテンウォールや枕元のナースコール等は●が営業、顧問先で納めさせて頂いた。大島さんはまだ警察病院にいますよ！と和田君。新装なった警察病院で大島君が活躍している。かつてお尋ね者の●だが、落第を続けて何回も大学一年生をしたお陰で、奥村、八代、伊藤と三代の警視總監が同級生。他にも警察には知り合いが多い。七回も臭い飯を食い(「欠食児童」の●には麦飯も結構美味しかった)、警察を悩ませた●、かつては手錠をかけられ護送車で地下から出入りした警視庁に、今は表から堂々と？出入りする。

## ◎胆石とピロリ菌、萎縮性胃炎・・・寄る年波には勝てず！

鼻から入れる胃カメラが楽だというのが、口から入れる。若い可愛い女医さんだな！と思う間もなく、津波のように吐き気が襲い、前夜から飲食なしで吐き出す物はないが、目から水が吹き出す。肩の筋肉に麻酔を打ったので痛みはないが、カメラが狭い食道を押し開け匍匐前進する度、オエツとなって苦しい。食道を通り胃へと落ちて行くが、大腸の時と違ってモニターを見る余裕はない。

お客さん見て下さいと女医さんが手を止め、ようやくテレビ画面を見る余裕が出来る。肌色の胃壁が映し出され、ゴジラ松井の顔のようにブツブツ、凸凹。更に進むと胃壁が白い膜で覆われている。特に胃の調子は悪くないのだが、胃炎だ。消化器癌を患ったのだから少しは節制すればいいのに、相変わらず暴飲暴食を続ける当然の報いか。80歳までの住宅ローンを背負ったばかりというのに、生きる時間の長さよりも、質の方に興味があるらしい。胃癌を引き起こすピロリ菌がいるかも知れないと、内視鏡のケーブルの中に更に細いケーブルが入れられ、チクリと痛みを感じ、検査のために組織が切り取られる。

二週間後、主治医の阿川先生に検査結果を聞く。腫瘍マーカーも低いまま、血糖、コレステロール値、 $\gamma$  gtpその他、血液検査の結果は問題ないが、腹部CTで思いがけなく胆石が見つかる。お腹が痛くなりませんかと聞かれるが、心当たりはない。薬で溶かせないですか？ガンで砕けないですか？と聞かすが、痛くなったら切るしかない、脂っこい物は控えて下さい！と阿川先生。ピロリ菌が見つかり、胃がん予防のため駆除剤を貰う。一週間飲み続け、二ヵ月後に検査、効果がない時は別の薬を飲み、駆逐される確率は9割以上。ピロリ菌を駆除すると胸焼けがひどくなる人が一割いますよねと尋ねると、胸焼けは薬で治せる、胃癌と胸焼けとどちらが大変ですか？と先生。

胃炎は萎縮性で老化によるものだという。寄る年波には勝てない。老い、そして死ぬということが、人間にとって避けられぬものであれば、老いと上手く付き合う、あれこれ思い煩うよりも、死をも客体化し、そのプロセスを楽しむ余生があってもいい。人はいずれ死ぬ。要は如何に生きるか？裏返せばどう死ぬか？ということでもある。人は生まれた時から死をも生きている。社会的、類的存在として、最期まで、少しでも他人の役に立ち、そのことを悦びとして、死んで逝きたい。

## ◎雨にも負けず山へ・・・ETC強行突破

3月に入ると時には山にも雨が降る。6人でいつもの宝台樹でスキーの予定が、山でも雨との予報にメンバーが半減する。それでも山に向かう。水上インターでETCを使って出ようとするが、カードのスイッチが入ってなくて出口のバーが開かない。ぶつかる！と一瞬目を瞑るが、バーがパツと上がる。後続車のETCが働いたらしい。強行突破したが、後続が迫りそのまま走り抜ける。

山の天気は気まぐれで、期待した通りの快晴。東京に雨を降らせた雲は奥利根には雪を降らせ、アイスバーンの上に新雪が薄く積もり、滑りがいい。快適に滑り終え帰ろうとすると、いつもの様に蕎麦屋の駐車場に置いて貰った相棒のベンツが動かない。前輪は駐車場の地面をはみ出し雪の上だが、後輪駆動なのに後輪が回らない。何故かABS(アンチブレーキロックシステム)が働いたようだ。蕎麦屋の主人のロープを借り、別の常連客の四駆のワゴンで牽引して貰う。

帰りにインターで有人の一般入口から入り、係員に朝の事情を説明、車をバックさせ、管理事務所に出頭する。朝運転して顔写真を取られたアマダイが、始末書にサインして一件落着。あらためてETCの入口から入り直すが、朝のデータが刻印されていないからか、今度もバーが開かない。係員が一般入口のカードを取って渡してくれ、練馬インターの出口で係員にカードを差し出し、事情を話してETCで精算、ようやく一件落着、無罪となる。

## ◎往復大渋滞も好き者は苦にならず、一人ぼっちでも雪山へ！

3月下旬の三連休の土曜日、寮後輩の福田前林野庁国有林野部長(S47年入寮)も初参加、ホームグレンデへ。都内で二ヶ所立ち寄るので何時もより早く7時半に家を出るが、宝台樹着は正午過ぎ。いつもの蕎麦屋も混んで待たされ、滑り始めは一時半過ぎ。雪はたっぷりあるが好天続きで融け、重い。スピードが出ず、圧雪されてコブも少ないので、最上級コースも気分よく滑る。水上町営温泉をいつもより30分早く五時半に出るが、上里で休憩後大渋滞が三つ続き、一度東松山で一般道に戻る。もっと渋滞しているので慌てて高速に戻るが、今度は川越で高速を降りるとカーナビが指示。11時過ぎ帰宅。たまにはスキー場も混まないとやっていけないからと懲りないのは、車の運転もスキーも好きだからか。

次の土曜はメンバーの都合が付かず、単独行。奥利根まで車を一人で運転する訳にもいかず、携帯便利なショートスキーを肩に新幹線でガーラ湯沢に向かう。浜松町駅に着くと、強風でガーラのゴンドラは動かないというが、今更引き返したくない。湯沢高原のリフトに振替えて貰えばそっちの方がいいと、強行。ガーラ湯沢のコースはゴンドラで登って、その上のリフト二本分を滑り降りるだけで、帰りはゴンドラで下山する。麓まで滑り降りられず、距離が短いのでベテランにはつまらない。湯沢高原はゴンドラからリフト二本乗り継いで山頂へ行き、麓の駅まで一気に4、5キロ滑降できる。久し振りの95センチのスキーはストックを使わず体を左右に動かし、コントロールする。勝手が違い不安定だが、長いコースを一気に滑り降りるのは気分がいい。最後の三回目は、ようやく慣れたか、一度も転ばずにダウンヒル。

## ◎勝どきは貰いが少ない！江東区民になる？

小平から勝どきに引っ越し、街頭でティッシュペーパーを貰わなくなった。宣伝のため街頭で無料で配るのは日本くらいだ。よく海外に出掛けるが、貰ったことがない。逆にティッシュには海外でよく助けられる。日本では公衆が出入りする場所のトイレでもほとんどの所でトイレットペーパーを置き、ウオシュレットさえ珍しくないが、海外はそうはいかない。勝どきの駅もラッシュ時の人通りは凄いが、新宿と違ってティッシュペーパーを配っていない。

土曜、日曜のいずれかは図書館で読書がてら体を休めることが多い。近くの月島図書館が工事閉館中で、中央区役所併設の京橋図書館に行く。ボロボロのママチャリで時に勝鬃橋、時に佃大橋とその日の気分で経路を変え、銀座で本を読む。他区に比べ財政潤沢な筈なのに、建替えたばかりの小平の花小金井図書館に比べ古くて快適と言えない。運河一本隔てた豊洲にも図書館はある筈、ららぽーとでの買い物かてら探すと、豊洲の駅前にある。月島や京橋に比べると新しく、設備もいい。隣区民ということで江東区図書館共通貸出カードを作って貰い、お世話になる。運動を兼ね午前は自転車、午後は歩いて、週末は豊洲図書館へ通う。歩くと片道35分、往復70分。ゴルフでハーフくらいは歩く感じで体にもいい。


自宅の買替えて損したし、新居はローンで買ったので住宅ローン減税も適用される、確定申告で源泉徴収済みの所得税全額を還付して貰える筈。わざわざ税務署の窓口が混む時に確定申告する必要はない。3月15日の期限を過ぎて確定申告、全額還付して貰えることになる。引っ越し作戦で●の財布は空になったが、これで一息つけるとほっとする。稼ぎが多ければもっと税金も還り、住宅ローン減税(ローン残額の1%還付)の恩恵も受けられた筈だが、社長兼労働者で、自分で自分の剰余労働を搾取する？だけなので、源泉税額自体が少なく、3年間繰り越しできる住宅譲渡特損減税も全額は利用できそうにない。

住宅ローン減税の権利は四年目から使うしか無さそう。もっと稼いで源泉税を沢山払えば、更に恩恵を受けられるのだが。景気対策とは言え、住宅を買い換えられる層には税金が還り、買えない者には恩恵なしというのには多少の違和感を覚える。

## ◎それぞれの偲ぶ会

春だというのに氷雨の降る日曜日、千葉の八千代霊園で、闘争中右翼に殺された日大全共闘の中村克巳君の40回目の偲ぶ会。久しぶり昔を振り返り、かつての仲間と交歓する。知床で牛、豚千頭ずつ飼う社員25人の農業法人興農塾を経営する、かつての日大農獣医学部全共闘代表本田君も二次会から参加、加工もするが販路が課題と。この夏、中標津へ飛べればと思う。矢崎日大全共闘副議長は、それぞれの日大全共闘を語る本を出すと張り切る。久しぶり皆の元気な顔を見て盃を重ね、参加出来ない仲間の顔も思い浮かべ、家へ帰って又一杯やる。

4月頭の金曜日、名古屋と大阪で3箇所営業、一杯やり大阪泊。翌日京都で、昨年亡くなった駒場の中国語クラス1年先輩、船場の商社辰野の副社長を偲ぶ会兼同級会。先輩達の同級会に参加させて頂く。榎並住友化学専務の案内で住友家の庭園有芳園を見学、辰野家の菩提寺妙心寺で辰野さんの霊を弔う。夕方、大橋和歌山市長や長浜の新工場の建築営業でお世話になっているピアス化粧品の坂本社長も参加、辰野さんを偲び、一緒に夕食。

5、6年前、辰野が新疆の省都ウルムチで経営する地下商店街見学会に参加させて頂く。その時既に辰野先輩も癌を手術し、と同病だったのだが、トルファンまでシルクロードを一緒に旅する。その後、辰野はI字型の地下商店街をT字型に拡張し、坂本先輩のピアスも出店、ファッションな商店街として、昨年の暴動をものともせず繁盛している。新装なった地下モールをもう一度訪ね、天山山脈の反対側のルートを辿って、シルクロードをカシュガルまで辰野先輩と一緒に旅したいと思っていたのだが、残念だ。

午前中時間があるので、せっかくの桜の季節、久しぶり京都で花見をと、タクシーを拾う。清水寺で花を愛で、八坂の芋坊で昼食をと運転手に相談するが、清水の坂を上るだけで1時間掛かる、予約なしでは南禅寺の湯豆腐もままならないという。仕方なく哲学の道辺りでもと車を走らせる。途中で三鷹寮、京大吉田寮と並ぶ全共闘の拠点だった京大熊野寮の看板が目飛び込む。思わず車を止める。吉田寮同様、まだ寮自治が健在で、自治会はノンセクトだが、中核派もいるという。掲示板をはみ出して張られた、革協同中核派機関紙「前進」を久しぶりに見る。食堂には可愛い女子学生。今は3分の1が女子学生で、留学生もいるが、留学生との交流は今一とのことで、三鷹寮と課題は同じだ。

## ◎福建紀行（II）

### ⑤変わらぬ熱気と交通事情

中国には朝の通勤時、夕方の退社時、そして昼の3回ラッシュアワーがあると現地の日本語ガイドの程君。泉州の昼、交差点に信号は見掛けず、警察官が立つが我先に車が突っ込み、全然前に進まない。車が入り込めない隙間には客を2人乗せて脇でペダルを踏む小さな人力車や、横に山の様に積んだ荷物を片手で支えてリアカーの脇でこぐ力車や2、3人乗りのバイクが割り込み、身動きが取れない。

中国のGDPが日本を抜くと騒ぐが、人口は十倍以上だから、1人当たりでは十分の一以下。購買力平価を考慮しても日本との一人当たりGDPの差は大きい。「改革・解放」以

来、富める者は益々富み、格差は広がる一方だ。街の各所で見掛ける胡錦淘の顔写真付き、「和諧社会」の実現を呼び掛ける大看板も色褪せて見えるが、日本が遙か昔に失ったハングリー精神、熱気が渦巻く。

サラリーマンは昼家に帰って食事し、1時間半か2時間昼寝して帰り、2時から6時まで又、働く。子供達も同様。学校に給食はなく、コンビニ弁当も売っていない。中央アジアや中東のイスラム圏もそうだが、暑い所ではこの方が生産性が上がるのか。夜の街も、日本のレストランがそろそろラストオーダーという9時くらいから12時過ぎまで盛り上がる。亜熱帯性気候なのに、昨日、今日と寒い。カシミアのセーターを持参して助かる。

## ⑥客家土楼へ。失いしものを求めて！

3時間の旅程で、永定の客家土楼を見るため高速道路を飛ばす。警察官を何回も見掛け、運転手が慌てシートベルトをするので、皆で大笑い。2月14日の中国の正月が近づき、給料が安い警官が罰金稼ぎをするのだと程君。アモイを外れると高速道路の両側にのどかな田園風景が広がり、バナナ畑も。売店で1本1円で売っていて美味しい。

高速から一般道へ、更に山道に入り雨が降り出す。4時間近くかかり山深い客家の村に着く。雲海に浮かぶ土楼群、雲に吸い込まれ消える緑の茶畑の段々、真ん中にぽつんと小さな作業小屋。枯れた棚田で落穂をついばむ白い鷺の群れ、土楼の庭先には満開の梅の花。土壁に吊された緑の菜っ葉。昔懐かしい、軒下に干された沢庵漬の余りのデゴパ（大根葉）と見紛うが、高菜だ。猫の額の如き土地にも大根や高菜、チンゲン菜が植えられ、間を鶏が走り廻る。失われた日本の、貧しくも美しく、懐かしい農村の風景が目の前に広がる。

かつて中原に住んだ漢族が、戦乱や飢饉などを避けて数度、豊かな南方の福建等に逃れて住み着いた。当時の言語、生活習慣、文化を今に守り、逆境に暮らす故に固い団結を誇るのが客家だ。異境から流れ着いた客人、中華のユダヤ人とも言われ、世界中に4千万人ほどいると言われる。太平天国の乱の洪秀全、孫文、老少平、シンガポール建国の父リー・クアンユー、台湾を民主化した李登輝等の政治家も輩出した。福建の山深く住み着いた客家が外敵から身を守り、一族数百人で身を固めて共同生活をした土楼。1階が食堂、2階が倉庫で外側に窓を作らないことで外敵に備え、3、4階を寝室とし、中庭に会堂を作るのが一般的。世界文化遺産に指定された土楼に外国人のみならず、都市部の中国人も大挙して押し掛ける。失われた何かを求めて。野菜主体の客家料理を頂き、飲むは青島ビール1本15元、下界では25元。

## ⑦若かったあの頃、何も怖くなかった！

アモイ市内観光は海岸の胡里山砲台の見学から始まる。台湾の金門島が真近かに迫る。イギリスとの戦闘に簡単に敗れた清朝が、軍備強化のためドイツのクルップから購入した口径28cm、砲長13.96m、射程距離1万460m、当時としては最高性能の2門の1門が残る。1門6万両（テール）、支払に2.2tの銀が使われた。半世紀余を経て中国共産党と人民解放軍が大陸を国民党支配から解放、逃げた蒋介石を追い台湾に攻込もうとした時、台湾海峡に米軍の艦隊が入り、国民党が土着の民を大虐殺した上、台湾を支配した。以来目と鼻の先の金門島との間で砲撃が繰返される。

蒋介石死後、息子の蒋経国、李登輝と時代が下るにつれ、民心には逆らえず、台湾の民

主化が進み、台湾と大陸の経済的関係も深まるにつれ、その砲声も絶えて久しい。大枚の金をはたき買った大砲も、今は若いカップルの記念写真の背景になるのみ。砲撃の目標になるのを恐れて、長らく 3、4 階建ての建物しか建たなかった背後のアモイの街には、今や高層ビルが林立する。

続いて厦門（アモイ）博物館へ。4 枚の写真の前で釘付けになる。吳学誠（1916-1947 年）、劉惜芬（1924-1949 年）、周景茂（1928-1949 年）、修省（1927-1949 年）。同時期に散った若い生命。蒋介石は最後の拠点厦門から台湾に逃げ、その前後、政治、地下工作、政治の延長としての戦争がアモイの地で激しく闘われ、先頭で果敢に戦った命知らずの若者は赤い花と散り、博物館に写真を残す。劉をオルグした最年長の吳が先ず最初に地下活動中に官憲の刃に倒れ、劉がさらに周と修をオルグ、共産党と人民解放軍がアモイを解放したその年に、若い三人は勇敢に戦って散ったのだろう。自らの命で贖う社会主義中国の未来を信じて。今に生きてらどう思うだろうか？

客家が中原から逃げ延びたように台湾に逃げた蒋介石。他方大陸に留まり、解放戦争、大躍進、文化大革命、改革開放、天安門事件と、動乱の 20 世紀を生き延び、今「社会主義」中国に生きる命知らず達の、その後は如何ばかりだったか？同じく生き延びてしまった日本の命知らずは考える。あの時の想いを胸に、残り少ない人生で何を為すべきで、何が出来るのか？と。

## ◎日本再生！舛添要一の展望と戦略・・・

### 東大三鷹クラブ第 90 回定例懇談会のご案内

節目の 90 回は二度目の登場になりますが、舛添要一参議院議員（昭和 42 年入寮）に講師をお願いしました。

舛添君が入学した 1967 年はベトナム戦争が激しさを加え、それに呼応するかのようになり、日本の学生運動が最後の盛り上がりを見せようとしていた時期でした。アメリカの北ベトナムへの爆撃を機にベトナム反戦闘争が大きく燃え上がり、70 年の日米安保条約改定阻止のため佐藤首相の訪米を阻止しよう！羽田へ行こう！米軍のタンク車を新宿駅で阻止しよう！デモの隊列を少しでも大きくしようと、昼は駒場のキャンパスで、夜は三鷹寮で、「24 時間革命のために！」熱心にオルグ活動をしていました。そんな時、木造の東寮 2 階奥の寒風吹き込む勉強部屋で、街頭の喧騒とは一線を画し、ドテラで寒さをしのぎながら静かに勉強する舛添君がいました。私が党派の主張を展開し、強くデモへ誘っても、「私は民社党支持ですから」と、受け流していました。その後、母校の教養学部で国際政治を教えた彼に、世界革命戦略、「国際政治」を説いた訳だから、若さというものは凡庸な人間にも不思議な力を与えてくれるものです。

68 年に入り医学部の処分反対闘争から火の手が上がった東大闘争が全学に広がり、ベトナム反戦闘争と結合、駒場のストライキを契機に、夏には全学ストライキに突入、東大全共闘が結成され、全国の大学に遼原の火の如くに広がる。だが、ようやく全国全共闘が結成されようとする秋、このままでは進学、卒業ができない、授業を再開しようという、クラス連合が組織され、民青系と結んで大きな勢力となり、安田講堂攻防戦を経て全学のストライキは終息に向かう。その先頭に舛添君がいた。

寮ではドテラを着て静かに勉強に励み、東大闘争では先頭でストライキの終息を図った

舛添君は、母校での学究生活を経て、敗れはしたが都知事選に立候補、人生の折り返し点を過ぎて再び政治の表舞台に登場、夏の参議院選を前に、「総理にしたい政治家」の最右翼にいる。国民待望の総理大臣候補の展望と戦略を、寮友の皆さんと語って頂きます。

申込者多数につき、急遽、会場を変えましたが、今回は形を変えて最初に講師に講演して頂き、後半、立食形式で懇談する予定でいます。(文責 干場 革治 S41年入寮)

日時：平成22年5月12日(水) 18時30分～21時(開場18時)

場所：学士会館本館201号室(千代田区神田錦町3-28 Tel 03-3292-5931)

会費：5000円(会場費、立食パーティ費、通信費など込み)

定員：150人(先着順、定員に達しない限り、特に連絡しません)

申込先：平賀・干場 Fax 03-5689-8192 電話 03-5689-8182

(有)ティエフネットワーク Email: [tfn-hoshiha@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiha@blue.ocn.ne.jp)

### ◎東大三鷹寮40年・41年合同会(第13回)のご案内

昨年6月5日の第12回の40年・41年合同会は、40年42名・41年12名合計54名が参加し、大いに盛り上がりましたが、それから早10ヶ月を経過しました。

そこで、旧交を暖めるべく今回も40年会と41年会を合同で下記のとおり行うことにしましたので奮って参加されるようご案内いたします。場所は例年と同じです。

なお、1昨年からご夫人にも参加を呼びかけましたら、40年6名が参加され、好評でしたので、今年も同じくご夫人をお誘いください。

なお、出欠のご返事はEメール又は同封の葉書で、遠藤(40年)、干場(41年)迄。

日時 6月4日(金) 午後6時

場所 トップ オブ ザ スクエア 宴(03-3217-0779)

(千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア23階)

会費 1万円。但し、ご夫人は半額5000円。

(呼びかけ人)

40年

宮原耕治・遠藤昭

41年

小林政秀・森下尚治・干場革治

### ◎グローバルネットワークを！新入生歓迎会、昨年以上に盛り上がる！

3月の、本郷へ進学した諸君の追い出しコンパ(歓送会)に続き、4月10日の新入生歓迎会に、三鷹クラブ差し入れの鮭桶持参で参加、棟ごとの二次会にも顔を出し、和食ファミレスの華屋与兵衛に寮生を誘いポケットマネーで打ち上げをする。新歓には300人中、250人くらい参加したのだろうか？狭い共用ホールは立錐の余地なく、その3分の1くらいは打ち上げにも参加したようだ。いつもの和室二間ぶち抜きでは足りず、テーブル席にもはみ出し、貸切状態に。

新たな触れ合いを求め集まった新入生も、楽しめたようだ。ニチレイ長谷川専務(S45年入寮)からは焼鳥500本、OB会から6人前の寿司12桶を差し入れして貰ったが、それではお腹一杯にならなかった欠食児童も、華屋与兵衛で満腹、何でも話せる友達の輪を広げられたらどうか？寮で、クラスで、サークルで、バイト先で、ネットワークを広げ、人間の幅を広げて欲しい。寮には世界中から沢山の才能が集まる。留学生とも積極的に交流、国際化の時代に必要とされる感覚を磨いて欲しい。

若い諸君もいずれ後輩の面倒をみて、強力な縦、横のネットワークを作り、かつての自  
治療の良き伝統を復活させたい。総合大学の寮であるが故に、文科Ⅰ類の弁護士から理科  
Ⅲ類の医師まで、全ての解が揃う、オールラウンドでグローバルなネットワークとなる。  
選ばれし者として、ネットワークの力を広く世のため、人のために役立てて欲しい。☛も  
時々寮へ出掛けたり、事務所や渋谷のどぜう屋等でコンパをしたり、そのための場作りで  
役に立てればと思う。

### ◎終わりに・・・キューバとチベットへ、共に世界を旅しませんか？！

LOOKJTBの8月7日出発「エアメキシコ直行チャーター便で行くキューバ8日間」と、  
トラピクス9月18日出発「天空列車で行く！遥かなるチベット7日間」の案内を新聞で  
目にし、直ぐ申し込む。これまでも何度か申し込んだが、人数が集まらなかったり、暴動  
が発生して取りやめになったり。どうしても行きたいツアーだ。

☛さんは普通の日本人が余り行かない、治安や衛生が良くない、発展途上地域によく行  
きますね？と聞かれる。若い時に刷り込まれた、「世界の農村が世界の都市を包囲する！」  
という毛沢東の世界革命戦略に、未だマインドコントロールされているのか？チベットで  
暴動に遭遇したら「銃口から政権が生まれる！」という、もう一つの毛沢東のスローガン  
を実践して銃を取り、アモイの四人の若者のように赤い花と散るのもいい！？

生きている内にカストロ（の看板！）に会い、体力のある内に高度5千メートルを駆け  
抜け、好奇心を全開、それぞれの社会の実情をこの目で見、肌で感じ、読者の皆さんにレ  
ポートしたいと思います。旅は道ずれ、世は情け！同好の士を募ります！再見！